

貧酸素水塊速報 (2018年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ 東京都環境局
 (国)国立環境研究所
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

平成30年6月6日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部の全域に分布しており、水深10~20mの海域では、溶存酸素量1.5mL/L以下と貝類の生存に影響を及ぼす水準まで低下しています(図1)。
 縦断ラインの鉛直分布では、貧酸素水塊は船橋沖から川崎人工島南まで分布し、厚みは海底から3~5m程と拡大傾向です(図2)。また、規模も約20%に急拡大しています(図3)。
 水温は表層22~23℃、底層16~20℃です。

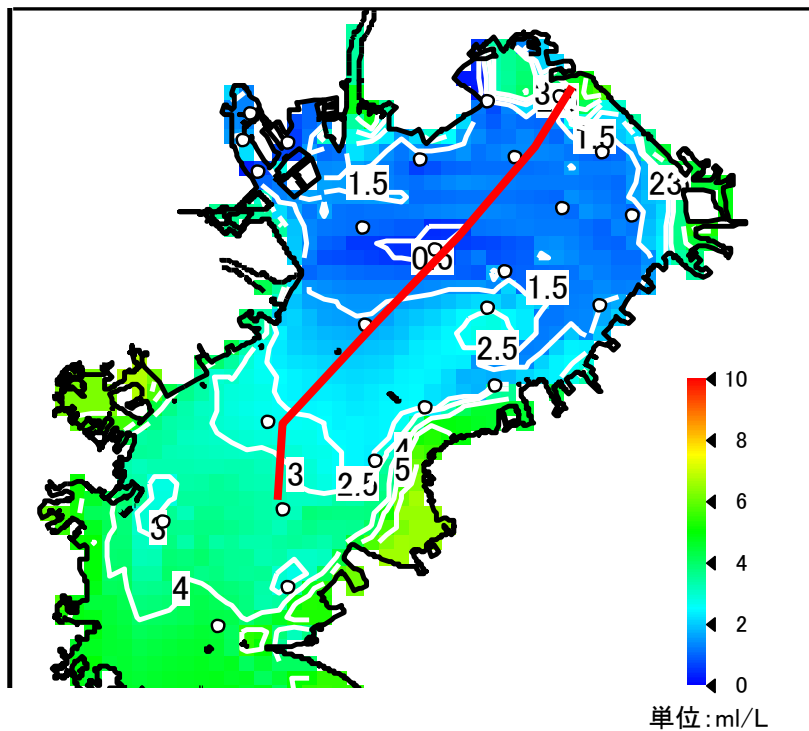


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

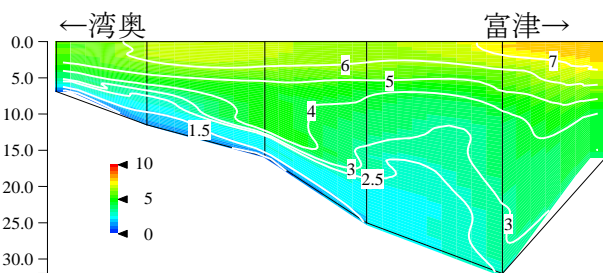


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

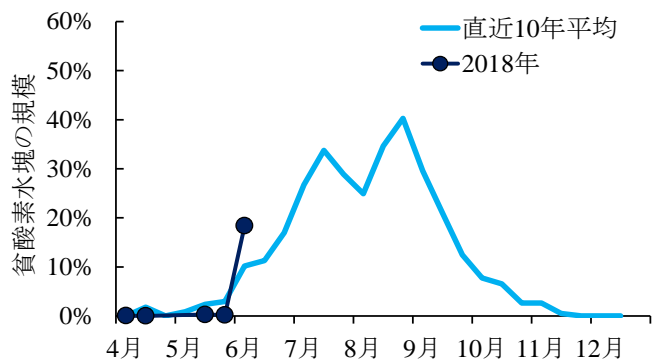


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)